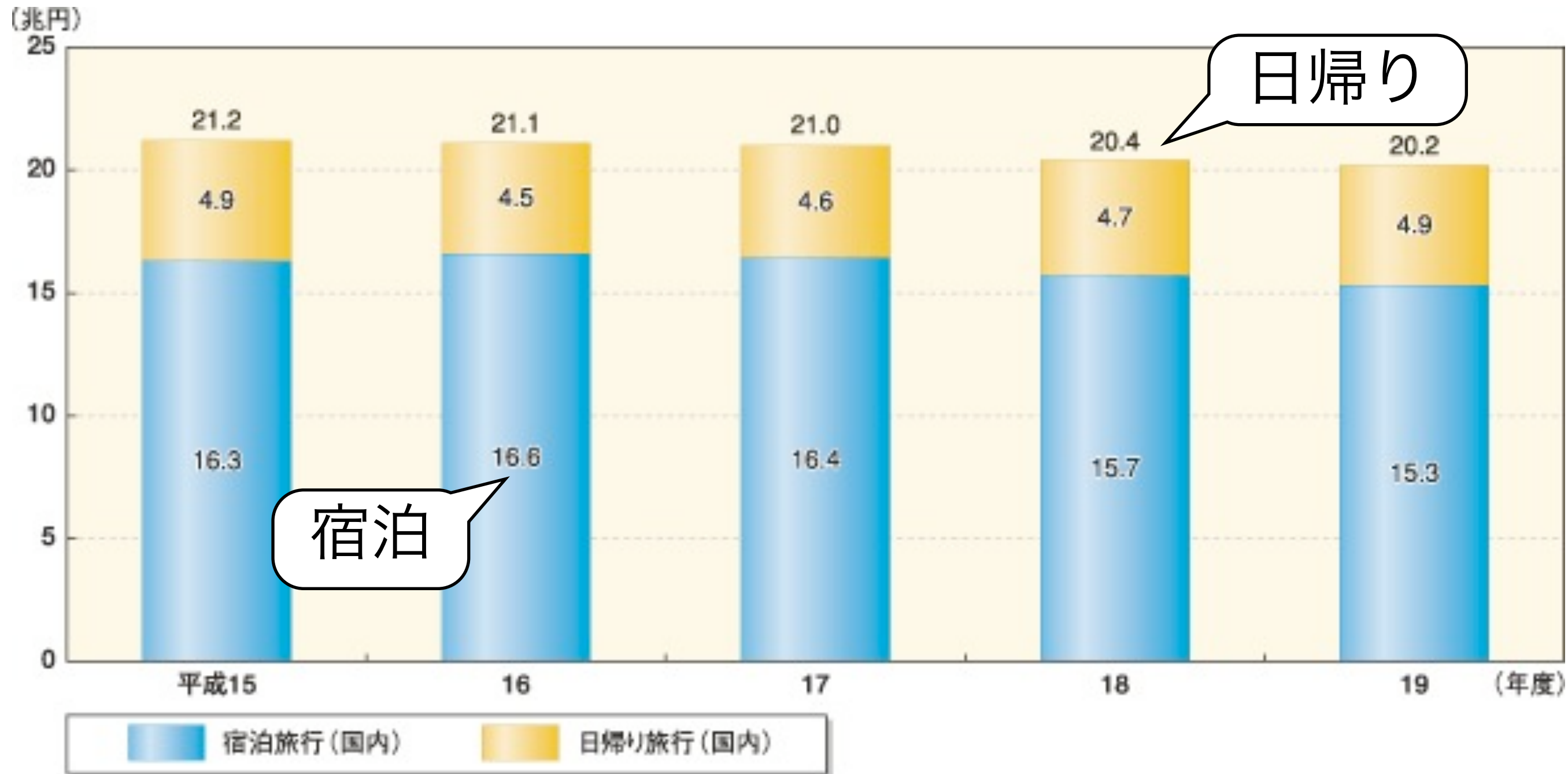


需要の平準化

平成21年12月16日

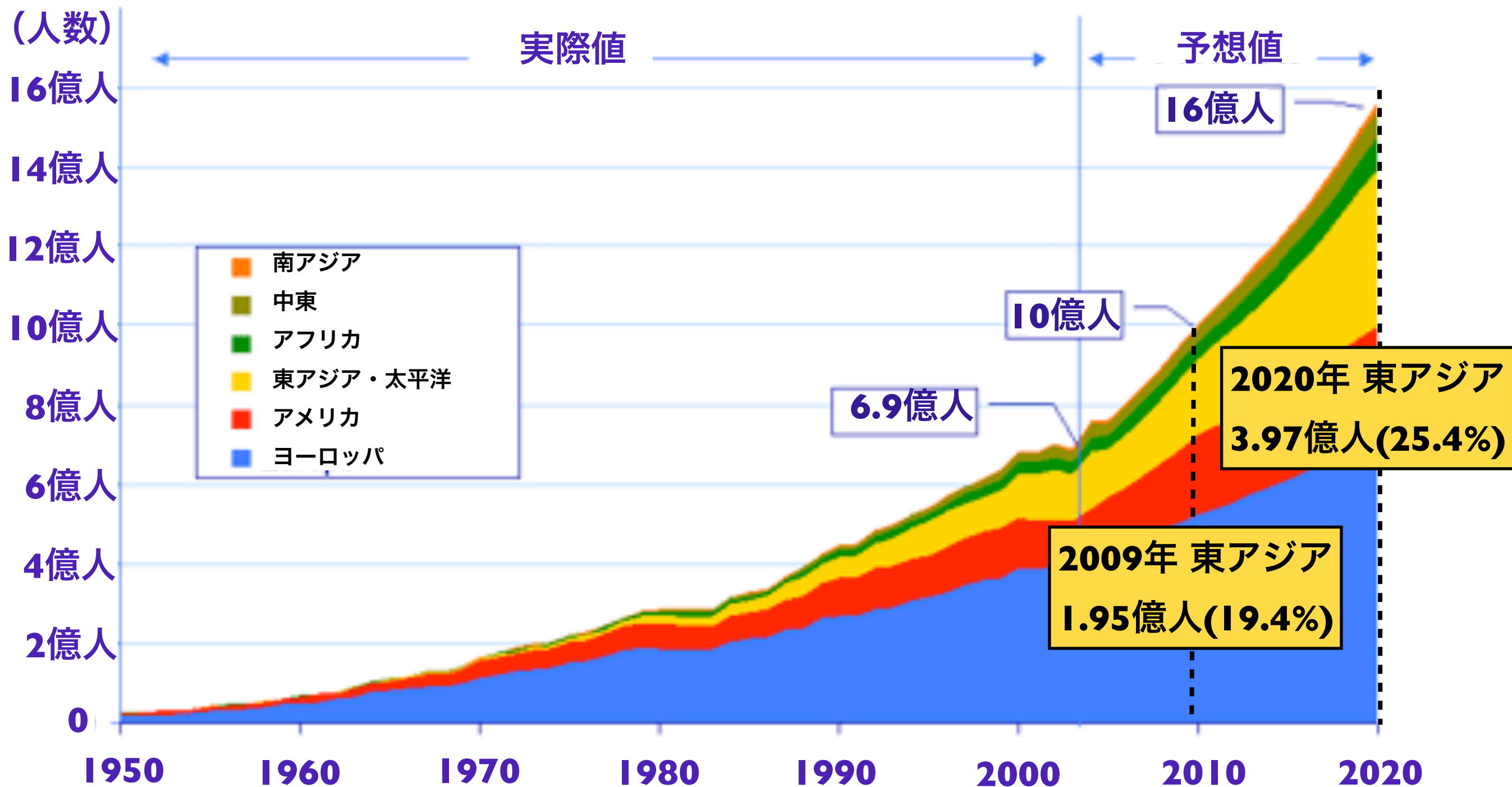
星野佳路

国内旅行需要は意外に安定している！



(注) 国土交通省観光庁「旅行・観光消費動向調査」による。

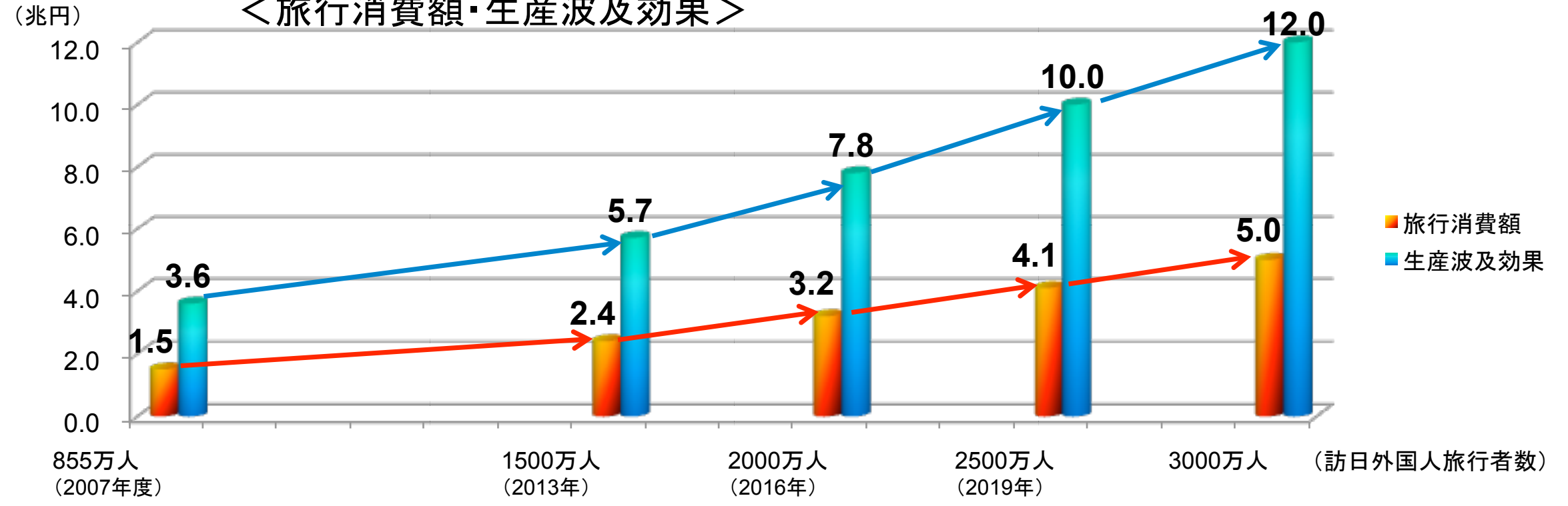
急増する国際旅行市場



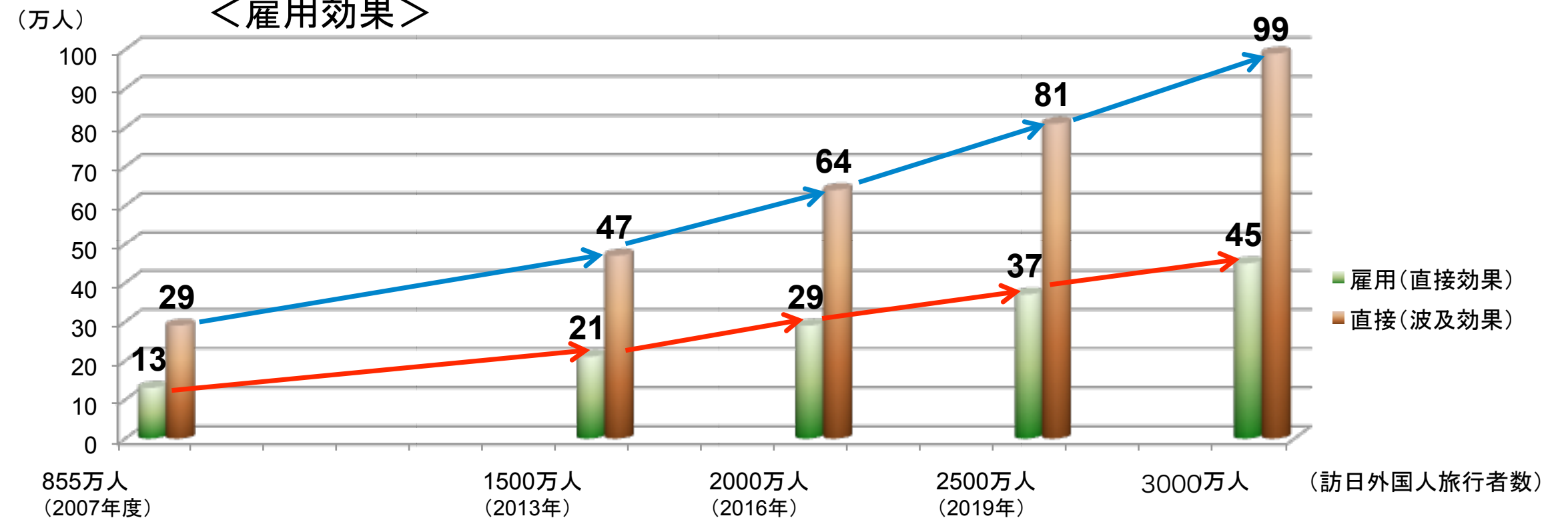
資料：世界観光機構 (UNWTO)

訪日外国人旅行者による経済効果等

＜旅行消費額・生産波及効果＞

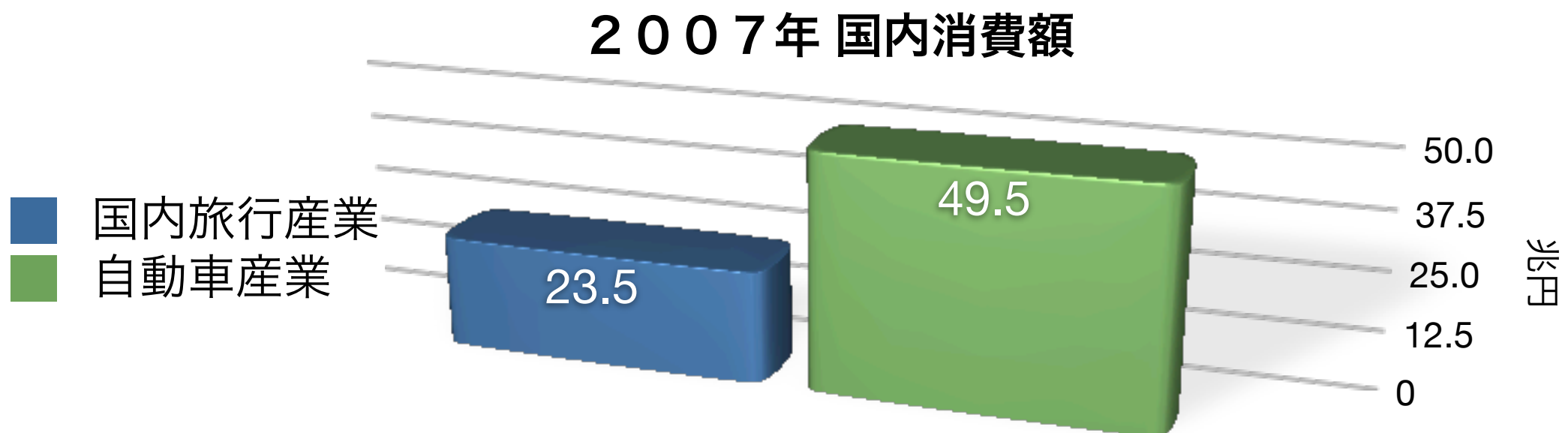
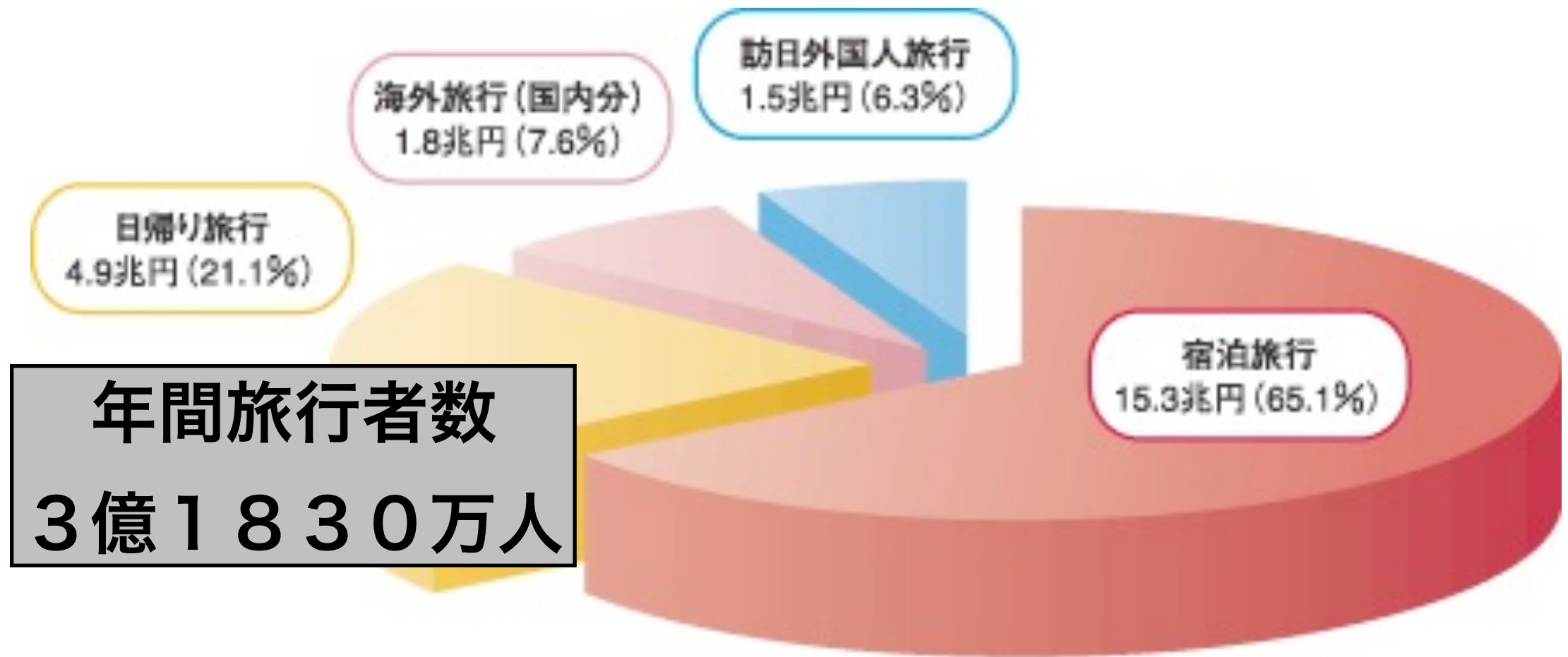


＜雇用効果＞

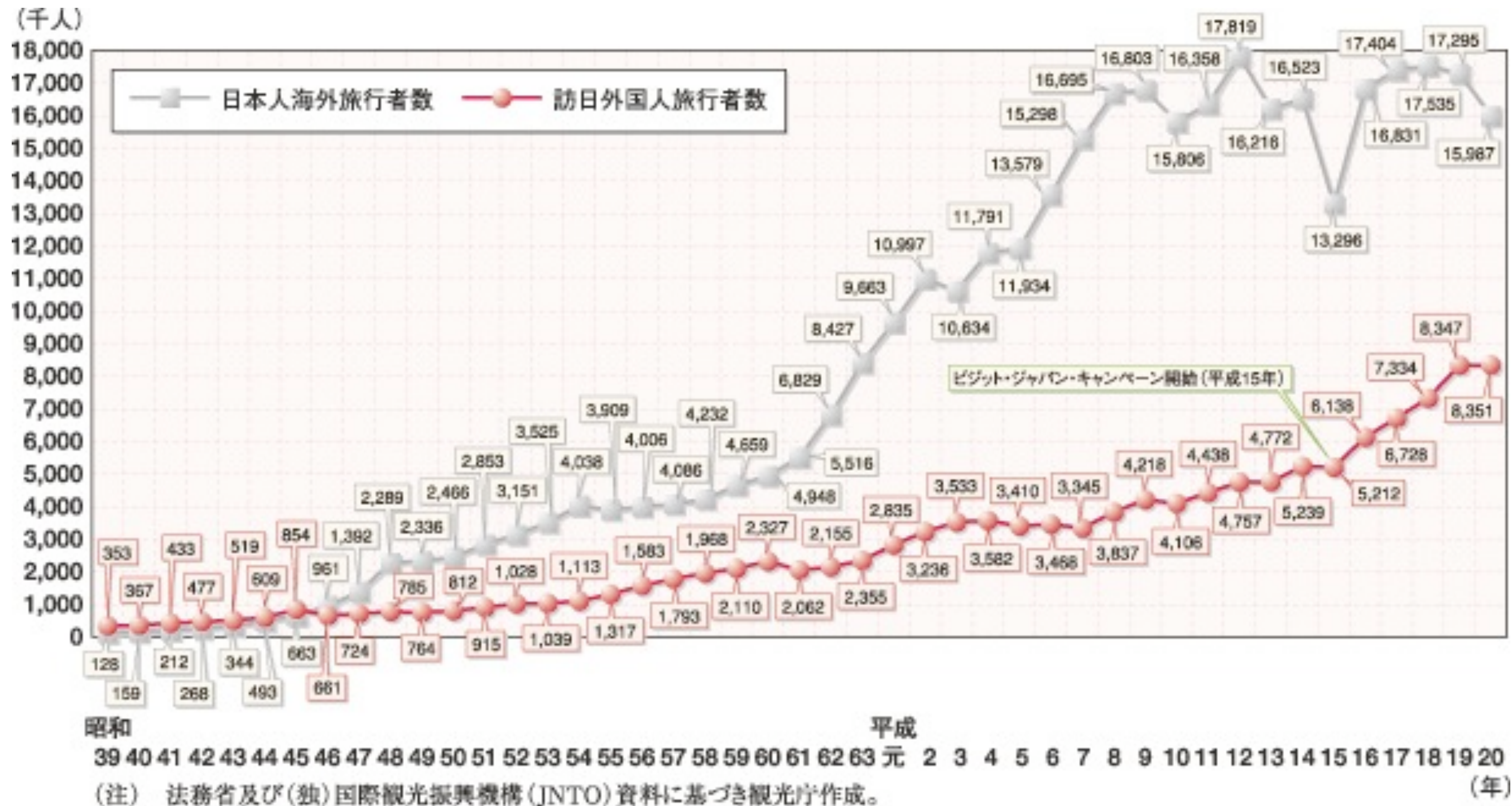


※2007年度の消費額は日本銀行「国際収支統計」による。「国際収支統計」では滞在期間が1年以上となる長期留学生による消費額等も含め推計している。
 ※2013年以降の旅行消費額については、JNTO「訪日外客消費動向調査2007-2008」を基に、観光庁試算。
 ※現時点での試算であり、今後大きく変更する可能性がある。

国内旅行市場は意外に大きい！



インバウンドを増やす vs アウトバウンドを呼び戻す



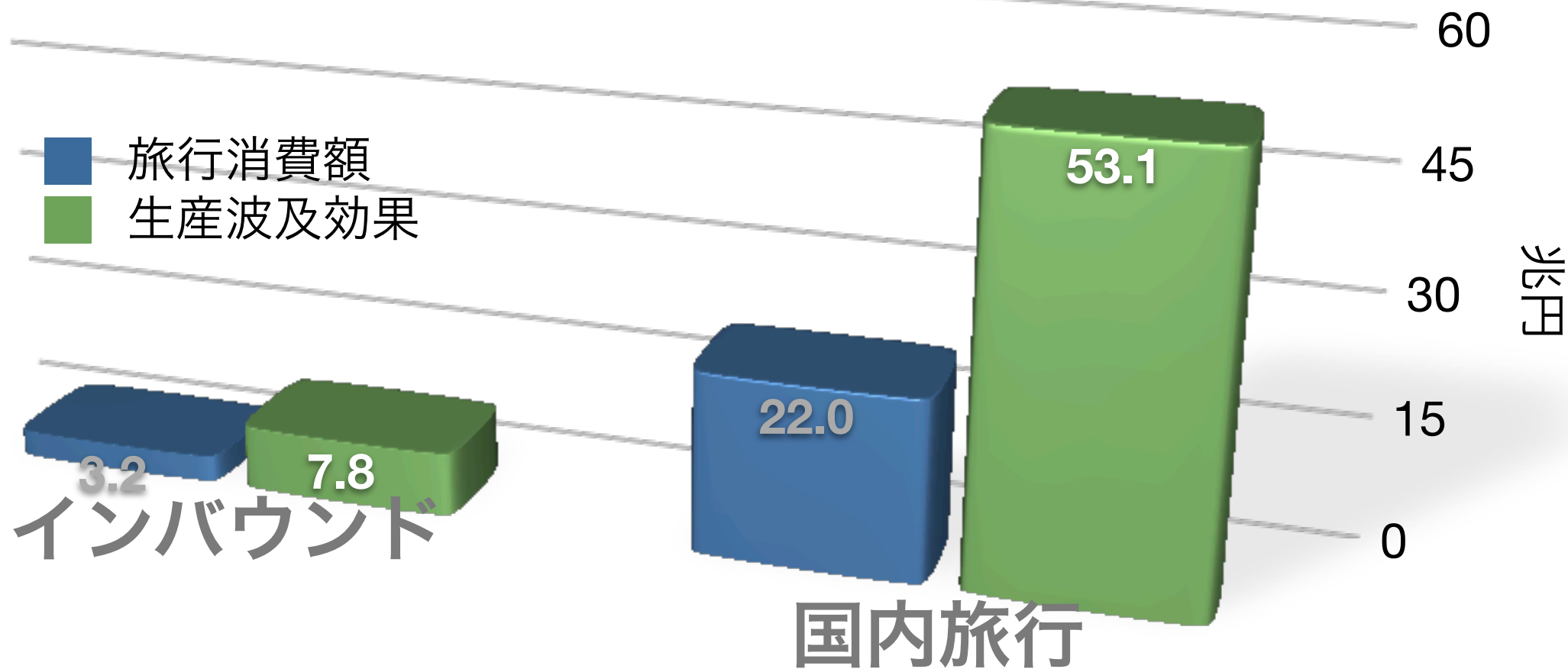
国内市場とインバウンド、 経済効果を比較をすると。。。。

インバウンド2,000万人市場

旅行消費額：3.2兆円
生産波及効果：7.8兆円

安定した国内旅行市場

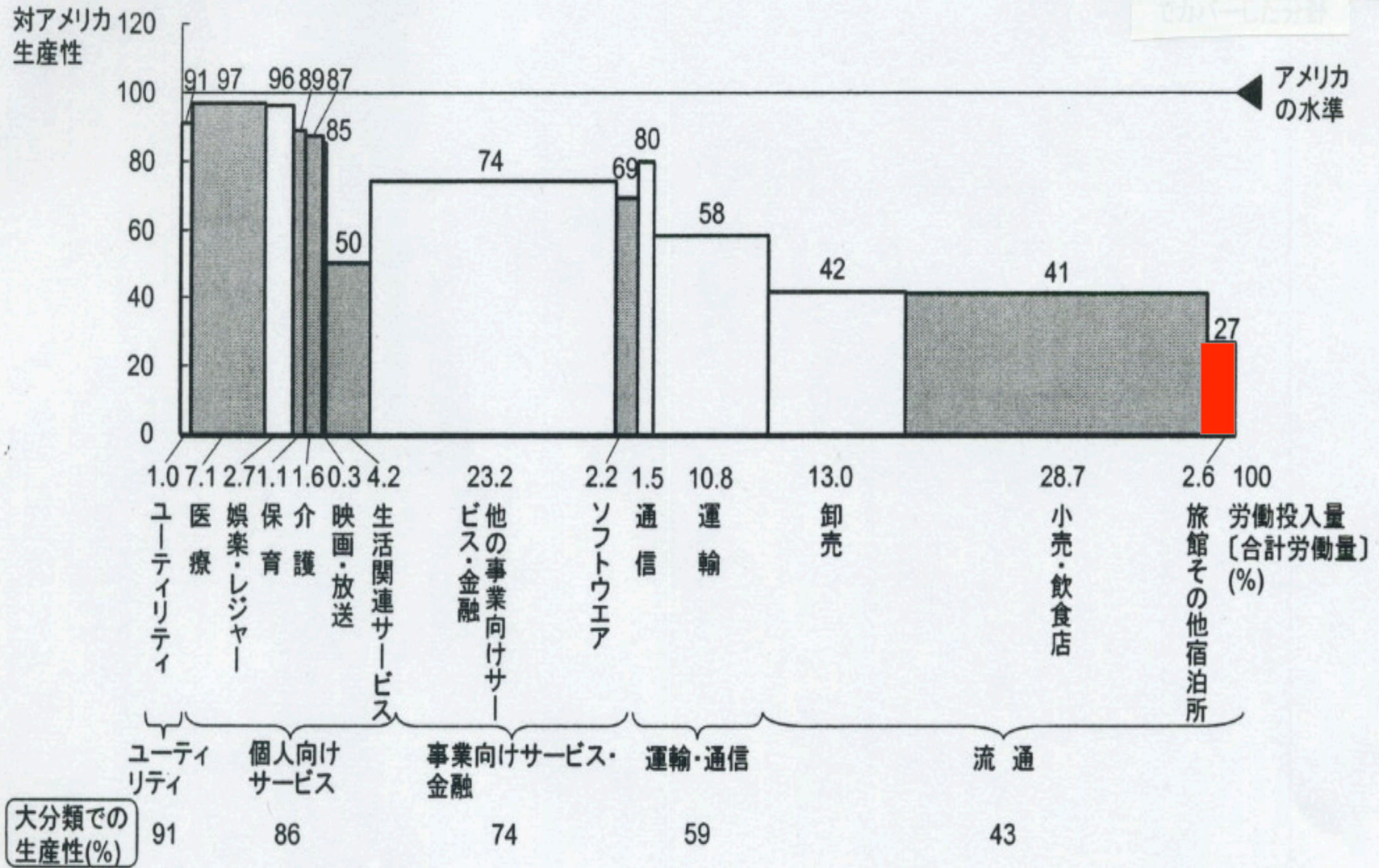
旅行消費額：22兆円
生産波及効果：53.1兆円



直接雇用：29万人
波及効果：64万人

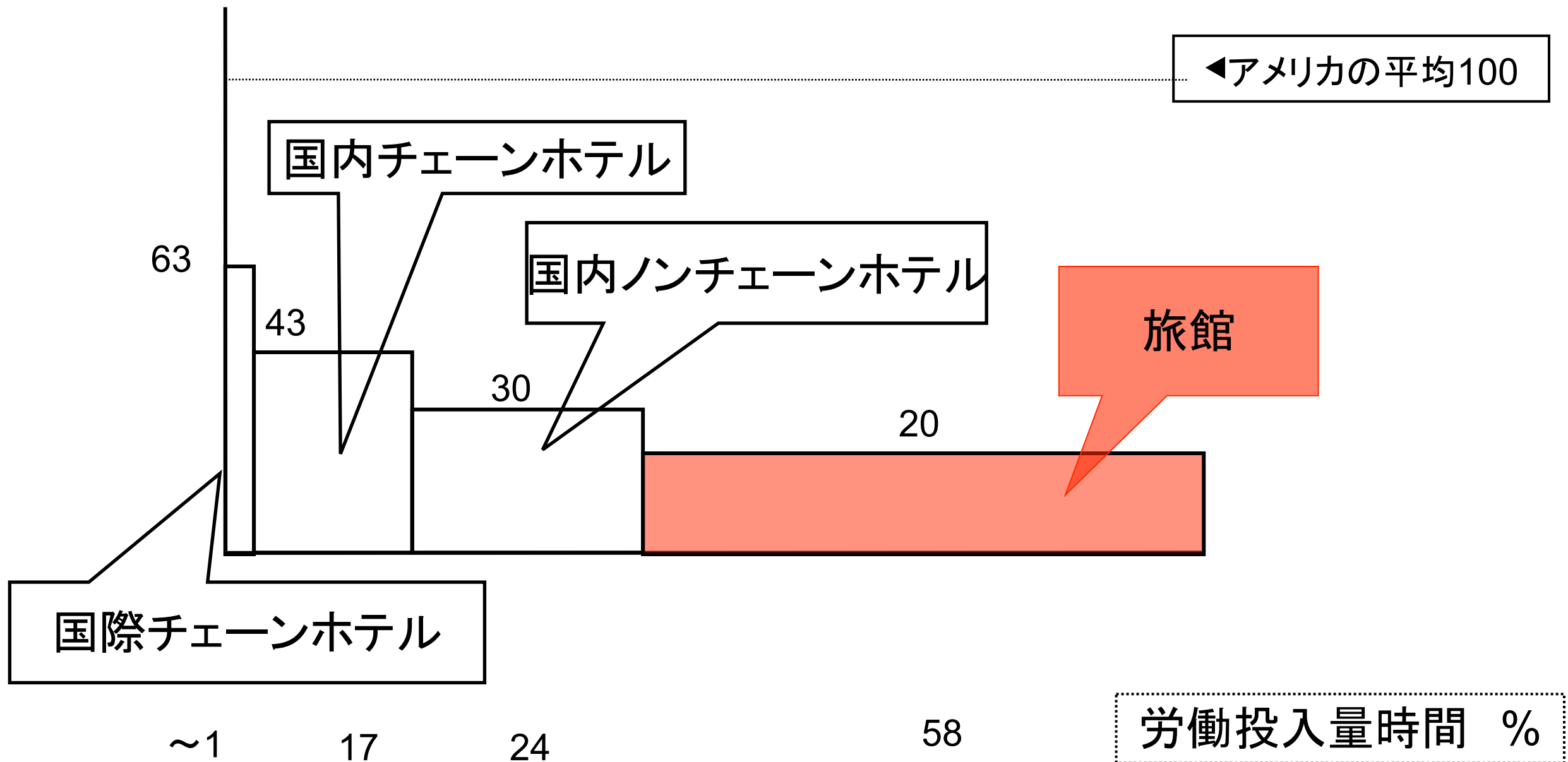
直接雇用：211万人
波及効果：441万人

サービス業の生産性 中分類



資料: 付属資料参照、マッキンゼー分析

業態別の労働生産性



日本の観光産業の課題

供給側の課題

魅力 (⇨商品力⇨集客力)

収益力 (⇨効率⇨利益率)

需要側の課題

繁閑の差 (⇨休みの分散)

高い交通費 (⇨LCC、高速道路)

地方には魅力があるのに 国内観光地が低迷する訳

年末年始、ゴールデンウィーク、夏休み、それ以外の土日

100日の黒字 265日の赤字

上記以外の
平日

需要が集中する結果：

1. 繁忙日は高速道路が渋滞
2. 繁忙日は全ての料金が高い
3. 繁忙日は満室で泊まりたい所に泊まれない
4. **だから旅行を止めてしまう**
5. 事業者利益は頑張っても頑張らなくても同じ
6. 固定スタッフを雇えない → 優秀な人材がとれない

顕在化しない
埋蔵内需

だから今こそ、需要の平準化策 ゴールデンウィークの地区別取得

国内地域毎に8つの地区に分けてGWを取得すれば、
5月1日から6月30日まで需要が平準化する。

関東の例：
埼玉県のGWは5月の1週目
神奈川県は5月の2週目
千葉県のGWは5月の3週目
東京A区のGWは5月の4週目

実はコレ
フランス、ドイツ、フィンランド
などではすでにやっている！

需要平準化

経済効果

消費者

混雑
解消

交通・宿泊料金低下
希望施設宿泊可

満足度
向上

埋蔵内需の
顕在化

観光宿泊産業
の競争力

稼働向上
& 平準化

派遣中心から
固定社員中心へ
サービス質的向上

頑張る
施設は
利益増

設備投資

建設・金融・
農業への
波及効果

訪日外国人集客

施設の
近代化

ソフトの
改善促進

世界市場
で魅力向上

観光立国へ
大前進

アジア市場をふまえた需要の平準化



インバウンドが少ない時に日本人は休みを取って、

内際での平準化

年末年始→旧正月→春のGW→夏休み→国慶節→秋のSW
通年で需要が平準化され、経済／雇用効果大